



～自分で考え 友達と一緒に活動し 振り返りのできる子～

学校だより 12月

令和4年12月1日

荒川区立

峡田小学校

校長 津田 利枝

日本式教育その3 ～清掃～

校長 津田 利枝

サッカーワールドカップ2022、日本対ドイツの試合で、歴史的勝利を収めた日本チームとサポーターが試合後にとった行動に世界中の注目が集まりました。選手がロッカールームをピカピカにし、さらには、折り鶴と「ありがとう」の文字を残していったこと、サポーターが応援席をきれいに清掃して会場を後にしたこと……。その心遣いやマナーのよさを世界中が絶賛したのです。インタビューを受けた森保監督は「当たり前のことをしてだけです。」と答えた……。一流の選手はスポーツが上手であるだけでなく、人間性も素晴らしいことを教えてくれると同時に、「自分はどうかだろうか」と見直す機会を与えてくれました。日本人の精神性、礼儀正しさというものがあらためて世界中に発信されました。

日本の学校では当たり前にある清掃時間。毎日、子どもたちが割り当ての場所を分担したり、当番制で行ったりしています。宿泊行事に行ったときには、「来た時よりもきれいに」と全員で部屋をきれいに清掃して宿舎を後にします。これらも海外から関心を集める日本式教育の一つです。学級活動の時間に低学年などでは、次のようなことを学ぶこともあります。「どうして（掃除を）するのか」を考え、

「もっとよくするにはどうしたらいいか」をみんなで話し合い、

「何をどうがんばるか」を自分が決める（意思決定）

子どもたちは「自分が決めた方法でがんばりたい」「みんなのためになることをがんばりたい」という気持ちを育みながら様々な活動を考えます。発達段階があがり、高学年になると、教室から学校全体に視野を広げ、委員会活動などを通じて「学校をよくするために」「学校のみんなのために」自分は何ができるかを考えたり、活動したりしていくようになります。「働く」ことの意義を知ること、自分の役割は何かを考え果たすことをめざしています。

自主性、社会性を育む日本式教育の成果の一つが、サッカーワールドカップのエピソードであると考えます。

さて、2022年もあと1か月となりました。今学期は、運動会と音楽会という2大行事を通じて、保護者の皆様に子どもたちの成長をお伝えしました。子どもたちが意欲や自信を高め、主体的に活動するように、学級担任は、峡田小独自の「運動会ノート」や「音楽会ノート」に毎日目を通し、コメントを書くという取組を行いました。そこには、子どもと担任の対話、温かな心の通い合いがたくさん生まれています。取組を通じて、変容や成長を見せている子供たちがいて、取組の手応えを感じています。

子どもたちの社会的・職業的自立に向けて必要となる基盤や力を育む本校のキャリア教育の実践を日々、進めています。令和6年2月には、この成果を全国に発信する予定です。